



‘はるか’



森の科学館の正面入口脇に植栽されている‘はるか’は、多摩森林科学園のサクラ保存林にある‘思川’の実生を1999年に発芽させた原木です。サクラ類の形質の遺伝を研究する材料として育成され、2004年に開花が確認されました。美しい八重咲きの花をつけたことから、森林総合研究所によって2012年12月に種苗法に基づく農林水産省の品種登録の出願をおこないました。苗畑で育成されていた原木は2013年に現在地へ移植されました。



マメザクラ



エドヒガン



オオシマザクラ



ヤマザクラ



‘十月桜’



‘染井吉野’



‘思川’



‘手弱女’

森林総合研究所がおこなった遺伝子分析によると、花粉親は‘手弱女’、母親の‘思川’の両親は‘十月桜’と‘染井吉野’と推定されています。したがって、野生種はマメザクラ・ヤマザクラ・エドヒガン・オオシマザクラ4種の関与していることとなります。

花弁は基部が白色に近い淡紅色で14～19枚の八重咲きです。エドヒガンの影響から、萼筒や葉柄に開出毛があることが特徴です。開花期は‘染井吉野’より遅く、4月中旬頃です。



‘はるか’

2013年のNHKの大河ドラマ「八重の桜」に因み、福島県では八重桜を復興へのシンボルとしています。このため、森林総研が育成した桜が福島県に寄贈され、大河ドラマ主演の綾瀬はるかさんによって‘はるか’と名付けられました。現在、復興支援に対する感謝の気持ちとして、福島県から全国に‘はるか’を贈呈・植樹するプロジェクトが進められています。